

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

11月号(NO14)通巻164号

2019年11月10日(日)発行(毎月10日)

【農暦】少量だが、小豆、黒豆の収穫！

○ここ来て急に寒くなったような気がする。長袖の出番である。秋が短く冬の気配を感じる。8日は立冬であった。旧暦では冬である。北海道は降雪のニュースがある。気候の変化は激しいものがある。未だ半袖の出番がありそうな気もする。

○大型台風、豪雨の度重なる被災の大きさに唖然とする。被災された方の冬への備えはと思うと何もできないもどかしさを感じる。ボランティアが頼りのニュースを聞くたびに、政治、行政の貧困を恨みたくなる。米国ではサイクロンの被災の対応如何が政権に問われると云う。“私は雨男である。”“身の丈に合わせ”発言など大臣の資質が問われる。政治家の劣化は止まらない。被害が大きかった千葉県の知事の記者会見は寂し過ぎる。怒りを覚える。

○ラグビーワールドカップは南アフリカの優勝で終わった。日本は8強入りの快挙である。男子と女子の大学駅伝も、アイススケートも羽生、紀平とが、活躍する。アスリートの活躍のテレビ番組がもったいない程続く。スポーツの秋が爆発しているような感じである。不満、不安の社会にあって、アスリートの活躍だけが救いである。ラグーマンの被災地のボランティアに心が救われた人は多いと思う。

○テレビ観戦に、ふるさとまつり、TGB、詩吟の大会が続き、あっという間に一か月が過ぎてしまった。草の繁茂力の脅威はなくなったが、畑や周辺の荒れは想像以上のものがある。ブルーベリーは蔓に部分的に覆われている。お茶の木は覆われて姿見えなくなっている。蔓を取り除くのも大変である。ブルーベリーだけ何とか出来ただけである。枝が伸び荒れた木が目につく。剪定作業など何処まで出来るか心配している。

○小豆、黒豆の収穫(写真上、下の通り)が出来た。黒豆1畝、小豆2畝で、従来の50分1、30分1以下の作付けであった。少量だが美味を楽しめる。来年の種も準備出来た。

○大根と白菜は順調に生育している。荒れた畑を少しでも良い状態したいと思う。先月も同じこと書いていた。(了)

【楽農】<畑>小豆、黒豆の収穫。ピーマン、ネギなど少量収穫

*草刈りは継続、小木の枝刈りは進捗僅か。

【楽市】イベント交流・直売など。

○イベントなど; TGB 大会(11・30日)ふるさとまつり・男

女共同参画(20日)、詩吟例会(17・21日)笠吟連大会(2日)共生の会(7日)川柳の会(7



<黒豆の乾燥>少量でも収穫が出来そう。8日撮影



<小豆と莢>少量だが美味を楽しむ。4日撮影

日)に参加など。

【つぶやき=Tweet】川柳を詠む「ラグーマン差別はいれぬワンチーム」!

○川柳を詠むようになった。流行にのった訳ではない。日本古来の文芸に造詣があった訳でもない。共生の会でジェンダー川柳の講座を主催してからのことである。最近ではテレビの俳句の番組をよく見る。新聞の川柳欄も見erようになった。静かなブームに支えられている。当然ながら、日本人の心情に合うのかも知れない。詩吟もチョットした縁があった。詩歌、和歌、俳句、川柳を詠むには作る意味が含まれる。詩吟は吟じるもので少し違う。時代や作者によっ

ては価値観を異にするものもある。
○俳句は自然、川柳は人間を詠むと云われるが最近では俳句も人間を詠んだ句もあり、自然を詠んだ川柳もあるという。川柳には人間性の介在が絶対必要条件だという。

○「家事出来ず しない人生 長過ぎた」(反省しても遅い)「ラグビーに青春時の友重ね」(ラグビーOB 仲間の顔)「ラグーマン差別はいれぬワンチーム」(人種を超えたW杯)「身の丈と付度求む社会かな」(文部大臣)と、今月詠んだ川柳である。下手の横好きで良いと思うからか、なかなか上達しない。「怖いのは国民よりも文春砲」(群馬県関口市朗)「文集砲だけが頼りの知る権利」(広島県久保 哲)(新聞・テレビまたも後塵)朝日川柳西木空人選(11月1日)の川柳である。新聞もテレビも、野党も頑張っ

て欲しい。政権チェック機能を果たして欲しい。怖い社会になってしまう。「文春」を応援しなくてはと思ってしまう。
○詩吟では、2日の笠吟連の大会で“閑林独坐す草堂の暁”で始まる、空海の「後夜仏法僧鳥を聞く」を吟じた。去年の大会では白居易(白楽天)の「酒に対す」を吟じた。“蝸牛角上何事をか争う”で始まり、“口を開いて笑わざるは是れ痴人”で終わる。二人は中国の都長安で会っている。三国志の曹操も“酒に対し当に歌ふべし、人生幾何ぞ、譬へば朝露のごとし、去日苦だ多し、慨して当に以て慷すべし、憂思忘れ難し、何を以てか憂ひを解かん、唯だ杜康(酒)有るのみ”と詠っている。時代が下って、良寛、西郷南洲(隆盛)新島襄などの好きな詩文が手元のカードにあった。人生へ想いは意外と近いものがあると、共感してしまう。詩吟の良さはこんなところあると思った。

○詩吟が若い世代に中々受け入れられないのは“古い体質”が大きいと思う。また、人生への思いも少し違って来ているのかも知れない。深いところでは同じだと思うが、伝えるための工夫が問われているように思う。千年以上の昔の詩を楽しめているのだから考えねばと思う。このままだと存続が危うい。(了)

○断捨離考:資料などと雑物少しだけ。遅々として進まず、気力だけが頼りである。

【後記】紅葉が、月が、星が素晴らしい!

Kogure 農場に。【特に編集せずランダム構成】



**<ふるさとまつり>男女共同
参画のクイズ。20日撮影**

発行者;小暮虎雄

住所;笠間市本戸4201-10

携帯電話:090-9333-4135

HP;kogure農場

メール;torao-k@nifty.com